



8/18 thu - 23 tue

at ぎゃらりい 宮郷

主催 広島県知的障害者福祉協会事業部文化・芸術の部

2016

わたしは



この作品展は、知的ハンディをもつ人たちの作品を広く知ってもらおうと企画したものです。

この作品展は、知的ハンディを持つ人たちの作品を多くの皆様に広く知ってもらおうと、広島県知的障害者福祉協会事業部会文化・芸術活動の部が、初めて企画したものです。

文化・芸術活動の部は、平成27年1月から、鞆の津ミュージアム（福山市）で「どや、〇〇じゃろ！」を開催しています。第3回は、9月4日（日）から2週間の予定です。開催回数を重ねていく中で、広島県内の施設からだけでなく、個人の応募も増え、知的ハンディを持つ人たちの多くの作品が世に出る貴重な機会となっています。

こうした活動の場を広島県西部にも広げていきたいと思っていた我々は、宮島町を新たな拠点に定め、ぎやらりい宮郷に会場を引き受けていただきました。「なぜ宮島か」とお思いでしょう？「宮島というのは、そういうところよ」と、ぎやらりい宮郷の奥様はおっしゃいます。この土地が持つ不思議な力に導かれてこの作品展は開催されます。

主催者

この作品展で紹介される作品たちは、「どや…」展同様、名もなき作家たちによって生み出され、名もなき紹介者の手により拾い上げられた作品たちです。この作品展のタイトルが生まれるきっかけとなった家村彪さんの作品は、このチラシの表面に使用しています。

家村さんは、1日のほとんどを1人で過ごしています。寂しくはないですかと尋ねると、みんなと過ごしたいと言います。けれどもみんなと過ごすことによって情緒を乱し、また1人になるということを繰り返すのです。

私が彼に接触し、絵を描くことを薦めたものの、あまり絵を描くことを望んでいなかった様でした。それよりも、1人ビートルズのCDを聴くこと、私が携帯でビートルズの曲（ハローグッバイ、ヘイジュード、オールニードイズラブなど。殆どはハローグッバイ）をかけ、居室からトイレまでの決まったルートを歩いて行き来すること、ドライブに行くこと、できればついでに缶コーヒーを買って飲みたいのでした。けれども、私が彼に絵を描くこと、書を書くことを薦めるのには、少しでも彼の心境の変化を感じ取りたいためで、同じ空間に過ごすことや対話することだけでなく作品から彼を感じ取りたいと思うからです。彼の描く「シャボン玉」は、バブルガン（シャボン玉を発生させる装置）から、ぶくぶくあぶくが出てきて、空に向かって球になるまでを描いていて、いつでも同じ構図で描かれます。けれどもその印象はいつも異なり、彼の心境の違いが絵に表れています。大抵は、致し方なく描いたといったところかもしれません。ただ、その中の数枚は確かに、普段無表情の彼が心の底から笑いながら描いたものです。その彼の笑顔が、まさに“花”のようで、私は作品展のタイトルを「わたしは花」としようと思ったのです。

広島県知的障害者福祉協会事業部会文化・芸術の部（太田川学園支援員） 羽鳥智裕

わたしは花

主催 広島県知的障害者福祉協会事業部会文化・芸術の部

《クロージング・イベント ～わたしは花～》

8/23(火) 13:00～15:00

最終日、交流会とともにライブ・パフォーマンスを行います。

ゲストパフォーマーの二人が、作品から受けるインスピレーションをもとに空間を再構築していきます。

special guest

大槻オサム

Hyou-tami

期間：平成28年8月18日（木）～23日（火）

時間：10:00～18:30

会場：ぎやらりい宮郷

住所：宮島 町家通り（宮島町幸町東表476）

電話：082 944 2608

ぎやらりい

宮郷

